

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 2 No 10

17号

平成6年12月1日

外来で気付いたこと2

院長

今回は、外来で気付いたこと2として、よく聞かれることについてまた話してみよう。

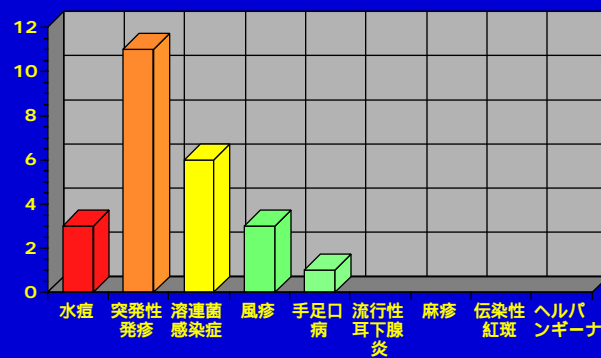
マスクミや週刊誌のせいでしょうか？。包茎を気にするお母さんたちが多いようです。多くはとりこし苦勞で、ほとんどは心配ありません。ほかのお母さんに「お宅のちゃん、包茎じゃない？」と言われたり、本で読んだりしたことが不安の原因のようです。特に乳児期や幼児期では、剥けなくても問題なく思春期までには剥けてしまいます。排尿時に、包皮（オチンチンを包んでいる皮）が膨れたり、何度も包皮亀頭炎（先端が赤くなって、膿がでたりします）を繰り返したりしなければ、手術の必要はありません。余り心配なら、小さいころどうだったかと、ご主人に聞いてみるのも一つの手かもしれません。

冬になると皮膚が、かさかさしてきます。これもお母さんたちの心配の種で、アトピー性皮膚炎ではないかと思ってしまう。ほかのお母さんに「アトピーの子は冬になるとかさかさしてくるのよ」「かさかさする子はアトピーなのよ」と言われ、心配になってしまいます。以前にも書きましたが、アトピー性皮膚炎には多くの誤解があるのです。アトピー性皮膚炎がなぜ問題になるのか、ここでもう一度考えてみましょう。皮膚がかさかさしたり、湿疹があるだけなら、こんなに大きな問題にはならないはず。ではどうしてなのでしょう。アトピー性皮膚炎の診断基準というのは御存知でしょうか。無くてはならない条件に、痒みがあります。痒みが無ければ、アトピー性皮膚炎を考えなくてもいいくらいです。痒みがひどくて掻き傷が絶えない、痒くて眠れない、掻いて掻いて血だらけになってしまう、痒みの為に集中できない。夜眠れないために精神的に不安定になったり、授業に集中できず成績が落ちてしまうなども起こってくるかも知れません。しかし、多くの場合は、皮膚に赤い湿疹ができただけで、アトピー性皮膚炎を考えてしまいます。一つの原因

は医師にもあるかも知れませんが、面倒臭いのか、簡単にアトピーという診断を口にだしてし、そして検査もしたがるはず。当然アトピーを心配しているお母さんたちは、診断を受けて安心します（病気に対する安心ではなく、思っていたことが当たったという安心です、誤解のないように）。しかし病気は、診断が目的ではなく治療が目的なのです。アトピー性皮膚炎と診断すれば、余計に深い闇の中に迷い込んでいくことになるかも知れません。余計な苦勞は、しょうがないに越したことはありません。病気を理解し、十分な根拠のもとで、診断したいものです。診察でも話しますが、お母さんたちの手、やはり冬になるとかさかさするのは当たり前、心配なら半ズボンで歩いているこどもの足を見せてもらってください、かさかさの足を見て、きっと安心することでしょう。

また取り留めのないことを書いてしまいましたが、包茎も、アトピー性皮膚炎ももちろんお母さんたちにとっては大きな問題です。他の病気についても同じですが、母親の義務として、よく理解するよう努めてください。

11月の感染症の集計



カゼは流行していますが、伝精製の疾患は余り変わりありません。溶連菌感染症がやや増加しています。水痘も少し増加するかも知れませんが、インフルエンザは今のところ見られません。

栄養育児相談

7日、21日(水)

午後休診のお知らせ

17日(土) 16:30~

小児科医会理事会のため

20日(火) 14:00~16:00

1歳6ヶ月健診のため

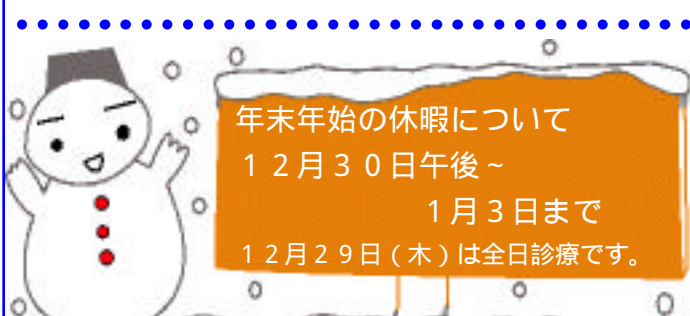


年末年始の休暇について

12月30日午後~

1月3日まで

12月29日(木)は全日診療です。



窓から (3)

時々、お母さんが薬を取りに薬局に行っている間、子供達が一人である時など私達が行って、一緒に遊んであげることがあります。泣いている時は抱っこしたりして。その遊びというのが、ほとんど本やおもちゃで遊んであげるのでありますが、時にはミッキー・トトロのぬいぐるみなどで投げあっこをしたり、前なんかはウルトラマンごっこみたいなことでも遊びました。そのウルトラマンごっこにちょっと先生もまざってきたのにはびっくりしました。ぬいぐるみで遊んだ時は、私的になったのでさすがにつかれました。でも、子供達が喜んでくれているのでそれなりに楽しいです。それに、なぜか子供達と一緒に遊んでいるとしだにテンションがあがります。そんな時、たまにお母さんのぼやきを聞くとありますが、その言葉を聞くと、やっぱり子供を毎日育てているお母さんはすごいと思いました。これからもまた、私的になって頑張りたいと思います。



ミキ

カゼのときは何を目安に、病院へ行ったらよいのでしょうか

病気で受診する判断は、子供には不可能ですし、なかなか行きたがりません。以前も書いたように、病院を受診する理由の多くは、お母さんの心配です。鼻水だけで心配するお母さんもいれば、3日位の熱でも平気なお母さんもいます。心配もお母さんによって様々で、一概に受診の目安は決められません。お母さんが自分の判断で、病院を受診するおまかな目安を決めることが大切です。たとえば「鼻がでたら」、「咳がひどくなったら」、「熱が出たら」、「熱が3日続いたら」連れていくというふうにしてしまえば、不安も少なくなり、自分も楽になるかも知れません。

テレビのコマーシャルのように 早目に薬を飲めば、早く治るのでしょうか

確かにテレビのコマーシャルを見ていると、そんな気になってしまいます。カゼの状態によっては、早目に飲めば症状が軽くなる場合があります。カゼは、引き起こすウイルスの種類や、本人の体調によって経過が決まります。インフルエンザ等の場合は、早目に薬を飲んででも、経過を軽くすることは、ほとんど不可能です（早目に飲んでインフルエンザはインフルエンザの経過をとりまわす）。カゼ薬は、治す薬ではなく、症状を緩和する薬であることをもう一度確認してください。

インフルエンザと普通のカゼは どう違いますか

仙台で、この冬第1号のA香港型のウイルスが分離されたのは、ニュースで御存知でしょう。インフルエンザと普通のカゼを区別するのは、熱や咳の出方や他の症状やどの所見で区別することは困難です。ですから我々も、お母さんたちからインフルエンザですかと聞かれても困ってしまうこともあります。診断は、周囲での流行状況や症状の推移から行うことになります（多くの場合熱が長く症状も重いことが根拠となります）。学童や成人では、全身症状（倦怠、頭痛、関節痛等）訴えるので比較的容易ですが、幼児期では訴えられないことが多く、診断はなかなか難しいものです。

カゼは予防が大切です。栄養や睡眠に気を配り、体調を充分管理し、可能な年令になったら手洗いやうがい忘れずに行いましょう。

編集後記

今年も1年何とか、過ぎました。風邪がはやっていて、身体に気を付けて、よいお年をお迎えください。新聞相変わらず苦勞しています。どなたかお手伝い又は投稿をお願いします。



医学マメ知識

その15

カゼについて

カゼとはどんな病気なのでしょうか

カゼという言葉は、いろいろな意味をもっています。一般には、上気道のウイルスによる感染症を指し、上気道の炎症による発熱、鼻水、咳などを主症状とする病気です。しかしそれ以外にも、ウイルスによる胃腸炎を「お腹にくるカゼ」と表現することがあります。同様にインフルエンザなどもカゼの一種です。カゼの種類も様々で鼻だけ、咳だけ、熱だけの場合やそれぞれが重複して見られたり頭痛、嘔吐、下痢、だるさや関節痛なども一緒に見られることがあります。

カゼのとき、小児科と耳鼻科のどちらを受診したらいいのでしょうか

これはなかなか難しい質問です。鼻だけがでる場合は、鼻炎（これにはアレルギーとウイルスによる場合があります）なので、耳鼻科でも構わないでしょう。しかし咳がでる場合は、小児科を受診するのが懸命と考えます。聴診器を当ててくれる耳鼻科であれば問題ありません。耳鼻科で治らないという理由で受診するなかに、時々喘息や気管支炎ということがあります。耳鼻科の先生に叱られるかも知れませんが、より重い病気のことを考えれば、小児科を受診するほうがよいでしょう。（耳鼻科の先生ごめんなさい）実際どちらでも、投与する薬はほとんど変わりません。

よくカゼをひくのですが、うちの子は身体が弱いのでしょうか

これはよく聞かれる質問です。結論を先に言ってしまうと、カゼですんでいるかぎり、全くそんな心配はいりません。カゼを引き起こすウイルスは約200種類あると言われていて、200もあれば1週間毎にカゼをいっても、何年もかかかってしまいます。カゼはチャンスの問題で、周りにカゼが多ければ、ひきやすくなります。幼稚園、保育所などでは、5人のカゼの子がいれば、全員5回カゼをひく回数になります。同じように1人目より2、3人目の方がカゼをひくことが多いようです。つまりカゼをひく回数と身体の弱さの間には、関係がないと考えてよいでしょう。

カゼの時には、生活はどうしたらよいのでしょうか

熱もなく鼻や咳だけの時は、余り寒くないかでの外出や湯冷めを避ける程度で、後は普通どおりで構いません。お風呂のことをよく聞かれますが、熱がないかぎり、入浴は差し支えありません。浴室は湿度があり、気道粘膜を乾燥から防ぐだけでなく、気道のクリーニングにも役立ちます。

目次に戻る

前の号

次の号